

都市河川景観の印象評価に関する研究 ～綾瀬川東京区間を対象として～

【研究背景】

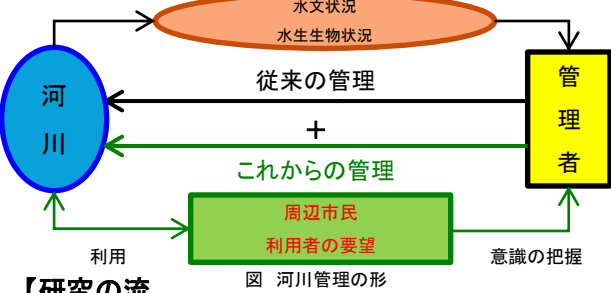
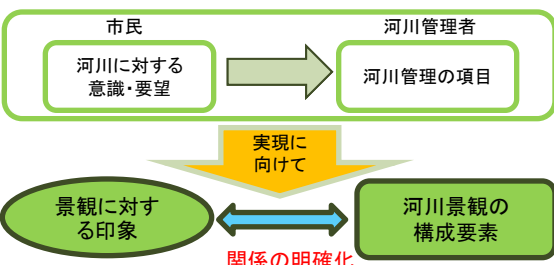


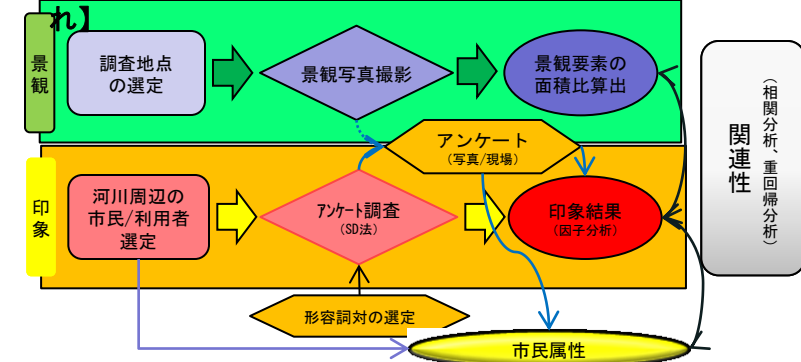
図 河川管理の形

【研究目的】



景観要素と市民意識との関連性を明らかにすること得られた結果の活用方法を考案すること。

【研究の流れ】



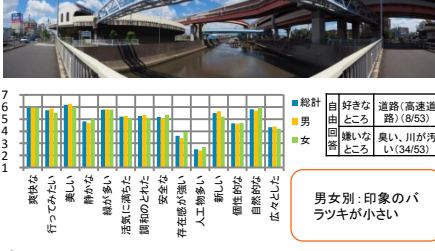
【調査対象地】



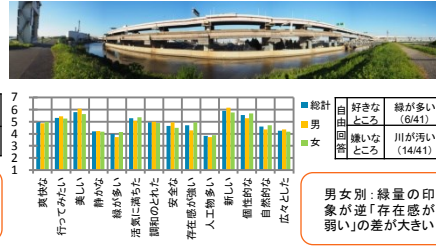
1 加平橋	4 堀切橋の上流右岸
2 綾瀬新橋	5 堀切菖蒲園水門
3 伊藤谷橋～水戸橋右岸	6 東四つ木避難橋

【アンケート結果・画像分析結果】

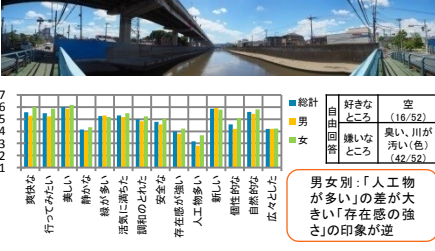
①加平橋 (青井中学校、写真、53人)



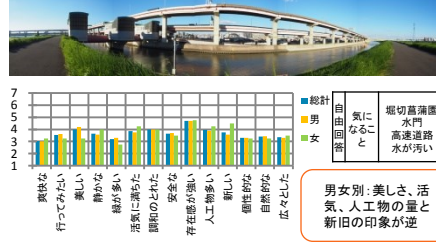
④堀切橋の上流右岸 (綾瀬中学校、写真、41人)



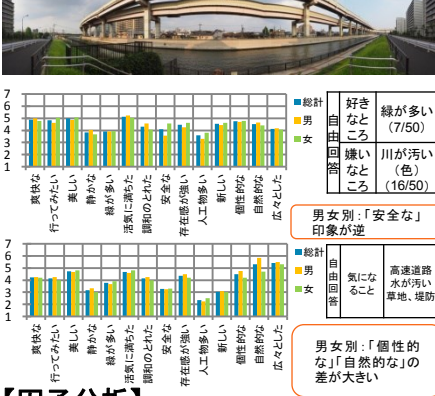
②綾瀬新橋 (青井中学校、写真、52人)



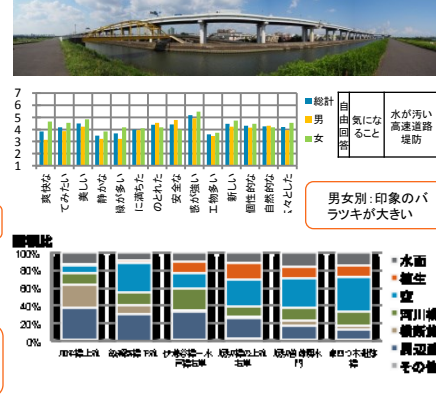
⑤堀切菖蒲園水門 (利用者、現場、20人)



③伊藤谷橋～水戸橋右岸 (綾瀬中学校/利用者、写真/現場、50/22人)



⑥東四つ木避難橋 (利用者、現場、24人)



【関連性分析】

因子代表形容詞 (写真法) と要素関係係数

	水面	植生	空	河川構築物	横断施設	周辺建築物	その他	強い相関
爽快な～爽快ではない	0.455	-0.91	-0.39	-0.53	0.964	0.582	-0.53	植生 横断施設
行ってみたい～行ってみたいくない	0.504	-0.64	-0.11	-0.86	0.829	0.161	-0.15	河川構築物 横断施設
美しい～美しいくない	0.405	-0.56	0.054	-0.92	0.724	0.003	-0.09	河川構築物 横断施設
緑が多い～緑が少ない	0.4	-0.93	-0.35	-0.51	0.949	0.582	-0.57	植生 横断施設
自然な～人工的な	0.432	-0.44	0.101	-0.96	0.654	-0.11	0.051	河川構築物
人工物が多い～人工物が少ない	-0.55	0.9	0.636	0.289	-0.98	-0.79	0.557	植生 横断施設 周辺建築物

重回帰分析から導かれた範囲条件と関係式

要素	植生	横断施設	河川構築物	周辺建築物
変数名	x	y	z	w
面積比の範囲	2～19	1～27	12～25	23～36

- ① 爽快な～爽快ではない = 5.251-0.021x+0.028y
- ② 行ってみたい～行ってみたいくない = 5.788+0.017y-0.038z
- ③ 美しい～美しいくない = 6.602+0.017y-0.065z
- ④ 緑が多い～緑が少ない = 4.769-0.050x+0.044y
- ⑤ 自然な～人工的な = 6.834-0.092z
- ⑥ 人工物が多い～人工物が少ない = 4.045+0.012x-0.034y-0.018w

【結論】

- ① 写真法と現場法の因子分析結果と写真法結果の試算結果より、二つ方法の違うところが検証した。
- ② 写真法の景観印象因子と景観要素の分析より:
 - 『植生』は快適感と自然感に肯定的な影響を与えている。『横断施設』と『周辺建築物』などは人工感に肯定的な影響を与えている。『横断施設』は河川景観の総体的な印象との間に強い相関がある。
 - 『植生』『河川構築物』『横断施設』及び『周辺建築物』との関連性を数値化した。『植生』『河川構築物』『横断施設』三つが管理可能な要素と考える。

【因子分析】

写真法	因子	現場法	因子
代表形容詞対		代表形容詞対	
行ってみたい～行きたくない、爽快～爽快ではない、美しい～美しいくない	快適感	爽快な～爽快ではない、緑が多い～緑が少ない、広々とした～窮屈な	爽快感
自然な～人工的な、緑が多い～緑が少ない	自然感		
人工物が多い～人工物が少ない	人工感	活気に満ちた～沈滞した、個性的な～平凡な	活気感

*因子は上から、第一因子～第二因子、第三因子